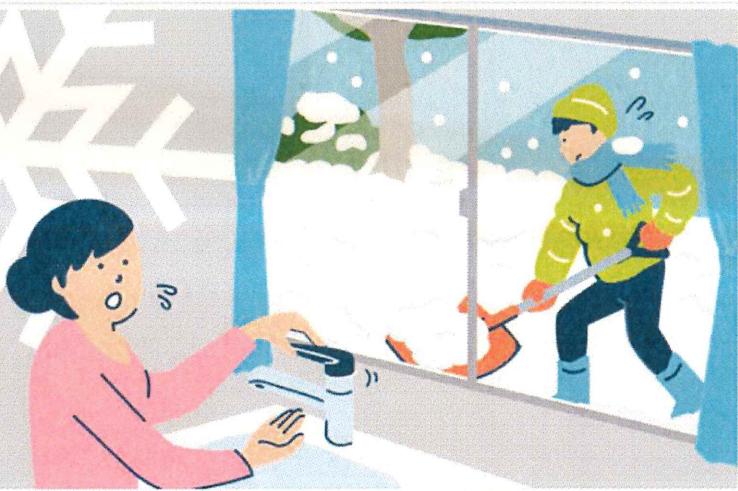


給湯器の凍結防止について

## 「寒波・凍結・積雪」

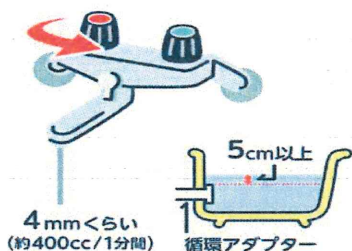
温かい地域でも寒波のときは凍結、積雪による給湯機器や配管の故障、破損の恐れがあります。

吉田ガス株式会社  
SHIZGAS 静岡ガスグループ  
☎ 22-2161



## 冷え込みが厳しいことが予想される時

給湯機器は気温が下がると安全装置が自動的に作動し機器の凍結を防止しますが、接続されている配管までは凍結を防止できません。配管の凍結予防のため以下の処置をしてください。



### 寒波の予報がでたら

おふろの給湯栓からごく少量のお水を出しっぱなしにしておいてください。  
追いだき付ふろがまの場合は浴槽に残り湯を残したままにしておいてください。



### 給湯機器の電源プラグは抜かない

給湯機器は外気温がある程度下がると凍結予防の安全装置が自動的に作動し、機器本体の凍結を予防します。(水抜きした場合は除く)

## 1. おふろの給湯栓から水を出し続ける



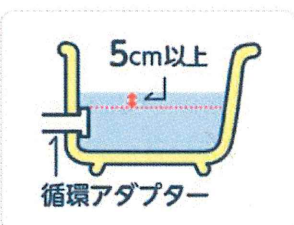
①リモコンの運転スイッチを「切」にします。



②おふろの給湯栓を開き、少量の水を流したままにしておきます。

お湯を出す給湯栓であれば、おふろ以外の台所、洗面所でも大丈夫です。いずれか1カ所をあけてください。

## 2. 浴槽に残り湯を残したままにしておく（追いだき付ふろがまの場合）



①浴槽の循環アダプター上部より5cm以上、残り湯（お水）がある状態にしておきます。ポンプが自動的に浴槽の水を循環させて凍結を予防します。

※凍結予防運転時は燃焼しません。

※浴槽に水がないとポンプが空運転し機器から大きな音が発生する場合があります。